

【学校教育に関する事項】

キーワード	内容
心の問題	自分以外の人のことも考えられる力があれば、社会人として育っていく
生活指導の充実	学校教育の中でも重要な柱。家庭が安定すれば子どもも安定する（家庭支援）
読書の推進	読書週間は授業に入り込む手法としては現場では有効に機能している
授業力を高める	思考力、表現力、判断力を高めるような授業をしよう。これは具体的には教える授業から、考える授業へ大転換
子どもの貧困対策	教育的な平等性をどう保障していくのか
希望と安心をもてる社会へ	「希望」とは、自分の力で日本や国際社会で生かせるという道があるということを実感させていくことを学んでいく。「安心」とは、その中でどうしてもついていけない子どもたちに、もう一度学びなおしができるということを担保する
情の育み	ソフトな心つまりデリカシーを持つ子どもたちを育てる
教育成果の保障	選挙で選ばれた市長がどういう目標を達成していくか 市民に対しその成果をどう保障していくのか

【教育環境に関する事項】

キーワード	内容
学校施設の維持改修	先を見据えたメンテナンスを考えていくべき。年間計画を立てて対応していく必要がある
教師力のスキルアップ	絶対条件
学校規模の適正化	システムとしてのクオリティの高い一貫校
地域との連携	学校の空き時間や放課後等で協力してもらえるボランティアなどのバックアップ体制づくり
障がい児対応	要支援だけではなく、多動性の子どもたちへの対応
支援関係の充実	教育と福祉との連携・協調
セーフティネット	2：6：2の問題で、その勉強の苦手な2割をどうするのか
健全な子どもを育む	学校施設の問題。公園の問題、遊び場がないという状況。グラウンドの活用
多様化する課題に対してのサポート体制	元教師もすごく多く、うまく活用できれば

【地域との関わりに関する事項】

キーワード	内容
学校支援地域本部の充実	<p>地域全体で子どもを育む環境づくり                      地域が学校を支える                      拠点としては学校内の余裕教室を活用                      学校が情報の発信源、文化の発信源                      色々な人に学校に集まっていただき、主体的に議論していただく                      地域と子供が共に学ぶ                      子育てをしている父親・母親の世代が参加しようという意識づけをする                      とともに、どういう形が参加しやすいのかということも考えていかなければならない⇒働いている人が参加しやすい体制をどう作っていくか                      地域の活動組織（PTAなど）がある中で学校の支援、色々な活動組織のネットワーク化、既存の組織で機能している部分もある、しかし、これからこれら色々な組織をどう活用していくのか                      65歳以上の人もどんどん増えていく中で、この人たちの知見を活用していかなければならない                      ボランティアというだけではなく、教える方も学ぶという環境教育というモデルを教育大綱の中で盛り込んでいく                      子ども会にしても、子どもを楽しませるという発想しかなくて、子どもたちが地域で何ができるんだという発想がない                      子どもたちも地域の主体であって、子どもたちがいるからお年寄りも元気になる                      地域も教育の主体であるけれども、子どもらも地域の主体なんだということ</p>
放課後の居場所づくり	<p>放課後児童会は学校内にすべて施設を置こう                      今の放課後児童会の預かるというテーマを、自由に遊ぶというテーマに</p>
学校図書館の役割	<p>単に本がたくさん並んでいる読書センターだけではなくて、学習センターや情報発信センターになっていくべき                      そういう形で動き出したら、地域に開放していく、地域の人がそこにいっぱいやってきて、そこで子供たちと触れ合っていく</p>
親学習	<p>親が親としての教育を受けていない                      ⇒親学習をする機会を作っていかななくちゃいけない</p>
幼保小連携の関わり方	<p>幼稚園教育から小学校教育への円滑な接続を目指して指導方法を工夫していくことが必要。そのためには、お互いの教育内容や指導方法について相互理解を深めていくことが重要</p>
家庭教育の支援	<p>家庭力の低下を共通認識としてもち、それを地域や学校でどうサポートしていくのか                      家庭教育というのはある意味、地域教育の縮図</p>

【生涯スポーツと文化に関する事項】

キーワード	内容
いつでもどこでも誰でもが学べる環境づくり	生きる上では文化活動・スポーツ活動はいつの年代でも大事なところ単に義務教育だけじゃない幅を広げた発想と目標の共有が必要だ
高齢者の生きがいづくり	<p>高齢化が進む中で、定年退職された後、健康に過ごしていただくという施策が重要</p> <p>社会でどう貢献できるのかという生きがいを作る</p> <p>元気なお年寄りが集まれる場所</p> <p>生涯学習としてのスポーツを考えていく中で、高齢者向けのスポーツ紹介とか教室を積極的にやっていく必要がある</p> <p>最初は親しむというところから入ってもらって、第二ステップとしては、社会の中でどう生かしていけるのか。いきがいをもってもらう。単に自分が体を動かして楽しむだけでなく、「私はこの交野、地域の中でこう生きている」という生きがい。そういう施策の提供、企画は行政がしっかり組織作り仕組みづくりを行う</p> <p>老人の余暇を面倒見ていくというのは古い考え、生涯学習の視点が変わってきている</p>
子供や若者を対象とした文化芸術振興策の充実	<p>子どもの感性育成を重点に文化芸術施策を実施</p> <p>子どもたちの未来のために生きる力を与えるというのが重要な視点</p> <p>学校や地域において本物の文化・芸術に触れるということが大切</p> <p>若者への感性を磨くために、その年代から優れた芸術に触れる機会をどうつくるかが大事</p> <p>伝統・歴史、あるいは和の心とかそういったものに触れる機会をしっかりと子どものころからもつ</p> <p>分野に長けた人が地域にいる、交野にも歴史の関係を専門的に勉強している同好会もあるので、そういう力を借りてやっていく。</p> <p>全て授業の科目でやっていこうというのは難しい</p>
文化芸術に地域振興・観光産業等への活用	<p>交野はやっぱり素晴らしい自然と歴史があるが発見されていない</p> <p>自然と文化をまず発見する、そして発信、それが発展へとつながる</p> <p>芸術・文化となると、事例として瀬戸内海の直島などでまちおこしや地域振興で島全体をアートの街にしている</p> <p>読書振興計画を作って、読書を通じて交野のまちづくり</p>
多様なスポーツの発信	なかなか身近に触れることのないスポーツも、体験することでやってみたいと思う子どももいる
社会で生きていくための基本的な関わり方を学ぶ	武道やスポーツには礼儀・礼節を学べる良さがある
地域スポーツと学校の連携	スポーツ団体のクラブ組織化と学校と顔の見える関係づくり

